

銅の輸入は景気後退で大幅減少

自動車生産・販売、住宅着工ともに大幅減

橋本健一郎氏リポート①

■国際概況

六月前半は、中国感染「第二波」による同国需要の悪化懸念とLME在庫の大幅増加などのマイナス材料もあったが、財新が発表した中国の五月サービス業購買担当者景況指数(PMI)の強気な内容を受けて同国経済回復とこれに伴う需要増加期待が強まりLME銅相場はUP、六月十五日時点で五、六四六ドル(セツル)と月初価格より二七〇ドルUPの前半締めとなった。

後半は欧米など世界各地で新型コロナウイルス感染第二波の兆しが現れるなどのマイナス材料もあったが、チリ国営コデルコ傘下の精錬所がコロナ予防のため操業停止が発表され、供給ひっ迫懸念が続いたことと、SHFE在庫の継続的減少したなどを好感しLME銅相場はUP、七月八日現在、後半スタート価格から四四〇ドルUPの六、〇八六ドル。当月スタート建値は六九万円。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇八・七四→一〇六・二四(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると四月の自動車生産台数は前年比四六・一%減の四三万八、七七〇台。輸出(五月)は前年比六六・二%減の一、九、九一〇台。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二六%減の二一、四、八五七台。

◆新設住宅着工件数

五月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比一二・二%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・三%の増加となった。

新設住宅着工戸数は六万三、六八二戸。前年同月比で一二・三%減と、一一カ月連続の減少。

新設住宅着工床面積は五、一七三、千㎡。前年同月比一五・六%減と、一〇カ月連続の減少。季節調整済年率換算値では八〇万七千戸。前月比一・三%増と、先月の減少から再びの増加。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三三・五%増の五万四、九五八t、スクラップが三一・一%減の二万二、七七五t。

輸入

輸入は電気銅が前年比三三・七%減の九八九t、スクラップが二八・七%減の八、五二六t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比二二・四%減の四万八、〇三三t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比二六・三%減の四万一、六〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車生産】

日本自動車工業会によると、四月の自動車生産台数は前年比四六・一%減の四三万八、七七〇台。

輸出(五月)は前年比六六・二%減の一、九、九一〇台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二六%減の二一、四、八五七台。

このうち、乗用車二六・六%減、貨物二一・七%減、バス四八%減。

【住宅着工戸数】

五月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比一二・二%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・三%の増加となった。

新設住宅着工戸数は六万三、六八二戸。前年同月比一二・三%減と、一一カ月連続の減少。

新設住宅着工床面積は五、一七三、千㎡。前年同月比一五・六%減と、一〇カ月連続の減少。

季節調整済年率換算値では八〇万七千戸。前月比一・三%増と、先月の減少から再びの増加。

(六面へ続く)

LME銅・コロナ第二波やチリでの銅鉱石供給の動向が左右 為替予想

(四面より続く)

【伸銅品生産】

五月伸銅品生産は前年比二二・四％減の四万八、〇三三tと、一八カ月連続減少。減少の原因として、同協会は新型コロナウイルス感染拡大によるマイナス影響とした。

二〇一二年以降の伸銅品の生産を見ても、単月の生産量が五万トンを超え込んだ月はなかった。また、前年同月の実績を二〇％以上下回ったこともなかった。

前月と同様に自動車向けを中心に伸銅品の需要減の影響が大きいとしている。特に、コロナ禍に伴う自動車生産の減少が大きいとしている。

品種別では、銅条が前年同月比一七・四％減と二カ月ぶりマイナス、黄銅棒が同二〇・六％減と一〇カ月連続のマイナス。

【電線出荷】

前年比二六・三％減の四万二、六〇〇t。このうち、国内二五・五％減、輸出が六二・二％減。

【輸出】

電気銅輸出が三三・五％増の五万四、九五八t、銅スクラップが三二・二％減の二万、七七五t。

【輸入】

電気銅が三三・七％減の九八九t、スクラップが二八・七％減の八、五二六t。

【見通し】

・ 四月の自動車生産が四六・一％減。国内販売台数が二六％減。生産・販売ともに大幅減。コロナショックで来月以降さらに悪化する。

・ 伸銅品生産は前年同月比二二・四％減の四万八、〇三三tと、一八カ月連続減少。多くにおいて新型コロナウイルス感染拡大によるマイナス影響があった。

・ 銅電線出荷は前年比二六・三％減の四万二、六〇〇t。このうち、国内二五・五％減、輸出が六二・二％減。こちらも同様に更に悪化！

・ 銅輸出は、電気銅は南米でのコロナ感染による産出低下観測から大幅増加、スクラップは発生減から減少。

・ 銅輸入はコロナショックによる景気後退からともに大幅減。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値がコロナ前の水準以上に戻したが、生産の大幅減により発生減から少ない。

需要面に関しては、南米でのコロナ感染拡大に伴う銅鉱石の産出減少観測からスクラップにも需要あり。

【LME・為替予想】

今月は世界的コロナ第二波の感染拡大動向や、チリでのコロナ感染拡大に銅鉱石産出懸念に左右される。

コロナ第二波の動向はオーストラリアで再ロックダウン地域が拡大していること、ブラジルや南米での感染が拡大していることから治まる気配はない。

南米のコロナ感染による銅鉱石産出減少懸念は、世界の銅鉱石生産量の四分の一を占めるチリやペルーでコロナ感染がブラジルや米国を上回るスピードで増加している。

また、チリ国営の世界最大級の銅生産企業であるCODELCO(コデルコ)の労働組合は、同社に対し、新型コロナウイルスの感染対策が万全ではないとし、アントファガスタ州での同社の操業停止を求めたとされていることから今後も懸念は続く。

これらを踏まえた七月の銅価格は、五、六〇〇〜六、一〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇七円〜一〇九円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては六四〇〜七〇〇円程度と予測している。

◇COMEX銅在庫

八日 八万七、九六三 トン
八五七 トン増

LME 非鉄在庫 (7月8日発表分)

	入庫	出庫	7月7日 現在	増減
銅	0	3,800	192,025	- 3,800
G A W	0	0	0	± 0
G A C	0	3,800	192,025	- 3,800
す ず	15	0	3,895	+ 15
鉛	0	100	61,700	- 100
亜鉛 SHG	100	300	121,950	- 200
アルミ	0	4,975	1,613,050	- 4,975
々 二次合金	0	0	6,540	± 0
ニッケル	462	24	234,654	+ 438
アルミニウム二次 (NASAA)	0	80	29,320	- 80